

#### 4. 人物紹介

**吉田茂**　　第 45・48～51 代内閣総理大臣。戦前からの古い政党人を退け、官僚出身者を抜擢し、政界の体質を大きく変えた。日本を復興させるために進めた「軽武装・経済優先」主義は戦後保守政治の基盤となった。

吉田茂の政治的立場を説明する。左から「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の3つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**鳩山一郎**　　第 52～54 代内閣総理大臣。政治家としての活動はおよそ半世紀に及ぶ。人間性を尊重した鳩山は、「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の3つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

片山哲の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**片山哲**　　第 46 代内閣総理大臣。弁護士の父、クリスチャンの母の影響で、片山自身もキリスト教信者として清廉潔白、弁護士として謹厳実直、権謀を嫌い、正論を旨とした。日本社会党初代委員長に選出されて、総選挙で勝利し組閣。

芦田均の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**芦田均**　　第 47 代内閣総理大臣。外務官僚出身ながら、早くに政治家に転身、自由主義の政党政治家として評価されている。新憲法草案に自衛力保持を留保する修正を加えたことでも知られる(芦田修正)。

岸信介の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**岸信介**　　第 56・57 代内閣総理大臣。吉田茂の政治をアメリカ追従型と批判し、日本を一人前の独立国家へ転換しようとした。そのために掲げた最大の課題が、日米安全保障条約の改定だった。

山口シヅエの政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**山口シヅエ**　日本社会党及び自由民主党衆議院議員(当選 13 回)。明るく華やぎのある雰囲気から下町の太陽と呼ばれた。

松谷天光光の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**松谷天光光**　第 22 回衆議院議員総選挙に餓死防衛同盟で立候補し当選、日本初の女性代議士の一人となる。

田中角栄の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**田中角栄**　　第 64・65 代　内閣総理大臣。吉田学校出身。日本列島の改造、つまり国土を均等に活用し、産業と人口の集中と過疎をなくすことを政治目標とした。

園田直の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**園田直**　　衆議院議員。内閣官房長官・外務大臣・厚生大臣等を歴任。陸軍軍人。1947 年、第 23 回衆議院議員総選挙で初当選。日本民主党を経て自由民主党結党後は河野一郎に仕えた。

池田勇人の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**池田勇人**　　第 58～60 代内閣総理大臣。吉田学校の優等生。日本の高度経済成長を成し遂げた。大蔵官僚から政界入りすると、1年生議員ながら第 3 次吉田茂内閣の大蔵大臣に抜擢され、吉田の側近として経済政策を推し進めた。

佐藤栄作の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**佐藤栄作**　　第 61～63 代内閣総理大臣。吉田学校の優等生。在任中の 7 年 8 か月、佐藤はさまざまな政策を打ち出すが、最大の功績は「沖縄の本土復帰」である。佐藤にとって沖縄返還問題は、吉田がやり残した仕事でもあった。

こりんの本名坂本喜代。新橋の元芸者で吉田茂の妻雪子の死後、身の回りの世話をした。大磯の別荘で共に生活をしながら、

**こりん**　本名坂本喜代。新橋の元芸者で吉田茂の妻雪子の死後、身の回りの世話をした。大磯の別荘で共に生活をしながら、日本のトップへと上り詰めた吉田茂を、持ち前の頭の良さで心配りで静かに支え続けた。

麻生和子の政治的立場を説明する。左から「友愛主義」「相互尊重」「相互理解」「相互扶助」の4つを「友愛主義」と呼び、政治理念の原則とした。

**麻生和子**　　吉田茂の娘であり、第 92 代内閣総理大臣・麻生太郎の母。父茂が総理大臣に就任し、サンフランシスコ講和条約締結の会議の際には、総理大臣の茂に私設秘書として随行した。

# JACROW#31『廻る礎』

## 日本国憲法・用語解説および人物紹介

日本国憲法と大日本帝国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

日本国憲法と大日本帝国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

観劇前にお読みになっても、作品を楽しんでいただくために問題はございません。ただし、内容に関わる部分も含まれますので、前情報無しでご覧になりたいお客様は、予めご注意ください。

内容は、インターネット上の情報などをもとに編集しております。解釈間違いなどをご容赦ください。よろしく願いいたします。

大日本帝国憲法と日本国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

大日本帝国憲法と日本国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

大日本帝国憲法と日本国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

大日本帝国憲法と日本国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

大日本帝国憲法		日本国憲法
1889年2月11日	公布	1946年11月3日
<b>天皇</b>	<b>主権</b>	<b>国民</b>
神聖不可侵の元首	天皇	日本国民統合の象徴
法律の範囲内で権利を認める	基本的人権	不可侵で永久の権利として保障
<b>天皇が陸海空軍を率いる</b> <b>国民が兵役の義務を負う</b>	<b>戦争</b> <b>軍隊</b>	<b>戦争を放棄し、戦力を持たない</b> <b>交戦権を否定する。</b>
天皇の協賛機関	国会	国権の最高機関
制限選挙	選挙	普通選挙

大日本帝国憲法と日本国憲法との比較。大日本帝国憲法は天皇を主権者とし、天皇は神聖不可侵の元首として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負う。日本国憲法は国民が主権者とし、天皇は象徴として統治権を行使し、国民は天皇に忠誠を誓う義務を負わない。

実は憲法改正のハードルは非常に高い。

- ① 国会が憲法改正案の確認を行う。(国会には衆議院、参議院の2つがあるが、どちらが先にチェックしてもかまわない。)
- ② 両院で審議が行われ、それぞれ総議員の3分の2以上が賛成すると、国会の審議を通過する。衆議院、参議院のどちらか一方でも、賛成が3分の2に満たなかった場合には、憲法改正案は廃案になる。
- ③ 国会での審議を通過すると、国会により憲法改正が発議される。つまり、国会から国民に対して、憲法改正が提案されるということである。
- ④ 国民投票において有効投票の過半数の賛成で改正案は成立する。賛成が半数を下回ると改正案は廃案になる。

なによりも衆参両院で3分の2以上の賛成を得るのが難しい。55年体制(2大政党制)の意義のひとつはこの改憲の条件を阻止できていたことである。社会党や共産党が憲法改正に反対だったのは当然としても、自民党内でも吉田茂率いる旧自由党の流れを汲む派閥は比較的護憲派や、改正慎重派が多い。

### 3. 用語解説

- ◆ 【大日本帝国】 1953年まで使用されていた日本国の国号の一つ。
- ◆ 【巢鴨プリズン】 巢鴨拘置所の事、第二次世界大戦後に設置された戦争犯罪人の収容施設である。
- ◆ 【GHQ】 連合国最高司令官総司令部。太平洋戦争後の日本を占領・管理するための最高司令部として1945年東京に設置。
- ◆ 【サンフランシスコ平和条約】 第二次世界大戦後の平和条約で、日本国と連合国各国の平和条約である。この条約の発効により、連合国による占領は終わり、日本国は主権を回復した。
- ◆ 【単独講和】 共同交戦国のうちの一国がその同盟国から離脱して単独に敵国と結ぶ講和。
- ◆ 【全面講和】 戦争終結にあたって、敵国を同じくして同盟関係にある全交戦国が、共同して講和条約を結ぶこと。また、ある一国が全交戦国と講和すること。
- ◆ 【日米安全保障条約】 日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約は、日本国とアメリカ合衆国の安全保障のため、日本本土にアメリカ軍が駐留することなどを定めた軍事同盟の事である。
- ◆ 【お堀端】 この作品の中ではGHQのことを指す。
- ◆ 【平和憲法】 日本国憲法を「平和憲法」と呼ぶ。
- ◆ 【天皇制護持】 天皇を中心にしてまとまる社会を守るもの。
- ◆ 【天皇主権】 天皇は国の代表者であり、政治の実権をもっているということ。
- ◆ 【国民主権】 国民が国の政治を決定する権利を持つという原理。
- ◆ 【民主主義】 民主主義または民主制とは、人民が権力を握り、みずから行使する政治思想や政治体制のこと。
- ◆ 【社会主義】 社会主義は個人主義的な自由主義経済や資本主義の弊害に反対し、より平等で公正な社会を目指す思想、運動、体制を指す。
- ◆ 【軍国主義】 手段として戦争を重視し、政治、経済、教育、文化などのあらゆる活動は、軍事力強化のために行わなければならないとする国家体制や思想をいう。
- ◆ 【共産主義】 財産の私有を否定し、生産手段・生産物などすべての財産を共有することによって貧富の差のない社会を実現しようとする思想・運動。

- ◆ 【婦人参政権】 GHQによる民主化政策の一環で女性に参政権が付与されたこと。
- ◆ 【A級戦犯】 第二次世界大戦後、連合国が「平和に対する罪」「人道に対する罪」を問うために訴追した日本の重要犯罪人のこと。
- ◆ 【戦犯容疑者】 第二次世界大戦で日本が降伏した後、連合国から戦争犯罪容疑者としての扱いを受けた人々を総称した言葉。
- ◆ 【大東亜戦争】 大日本帝国と、中華民国、イギリスやアメリカ合衆国、ソビエト連邦、オランダ、オーストラリアなどの連合国との間に発生した戦争のこと。
- ◆ 【再軍備】 は軍備を一旦廃止した国家が再び軍備を整える状態のこと。
- ◆ 【連合国】 第二次世界大戦において、日本、ドイツ、イタリアなどの枢軸諸国に対して交戦状態にあった国々を総称して連合国とよんでいる。
- ◆ 【自由党】 1950年(昭和25)3月1日、民主自由党が民主党連立派の一部を吸収して結成した保守政党。
- ◆ 【社会党】 社会主義を掲げる革新政党である。
- ◆ 【国民共同党】 1947年(昭和22)3月8日、協同民主党と国民党が合同して結成した中道派の政党。人道主義、協同主義を綱領に掲げ、官営事業の民営化、生鮮食料品の統制撤廃、農山漁村の近代化を目ざした。
- ◆ 【民主自由党】 1948年に結党された日本の政党。略称は民自党。前年暮れに日本社会党との連立政権に反対して離党した元民主党議員からなる同志クラブ・民主クラブと、野党であった日本自由党とが合同して民主自由党を結成した。
- ◆ 【属国】 他の国に従属している国家。他の国の支配を受けている国。独立していない国。
- ◆ 【帝国議会】 明治憲法下における議会。
- ◆ 【弾劾的上奏】 現在で言う「内閣不信任決議」のこと。大日本帝国憲法においては、内閣総理大臣及び国務大臣の任免権は天皇が有していたため、帝国議会の衆議院は天皇に対して現在の政府を信任していない旨について上奏を行うという形式で天皇に善処を求めることができた。
- ◆ 【売国奴】 売国の行為を行う者に対する侮蔑語。
- ◆ 【主権在民】 国の主権が君主にあるのではなく、国民にあること。国民主権。
- ◆ 【職業婦人】 第一次世界大戦や関東大震災などを経て、女性も事務員やタイピストなどの仕事に就くようになり、このような新分野の仕事に就いた女性たちは「職業婦人」と呼ばれた。
- ◆ 【芦田修正】 第90回帝国議会の衆議院帝国憲法改正小委員会での審議過程において第9条に加えられた修正であり、第1項冒頭に「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」の文言を加えたこと
- ◆ 【公職追放】 政府の要職や民間企業の要職につくことを禁止すること。
- ◆ 【利他の精神】 相手の、または他人の利益や便益を重んじ、自己をささげる心構え。
- ◆ 【自由主義経済】 市場を通じて財・サービスの取引が自由に行われる経済のこと。
- ◆ 【警察予備隊】 1950年8月10日の警察予備隊令によって、「わが国の平和と秩序を維持し、公共の福祉を保障するのに必要な限度内で、国家地方警察及び自治体警察の警察力を補うため」創設された警察隊。
- ◆ 【白亜の恋】 園田直と松谷天光光の党派を超えた電撃結婚が「白亜の恋」と騒がれる。国会議事堂の色が白亜でそこを舞台にしたから。
- ◆ 【党是】 その政党がよしとしてきめた党の基本方針のこと。